帰国研修員便り

【帰国研修員の活動状況】

オーブリーさん(フィリピン帰国研修員)から近況報告が届きました。

１）コースリーダー：　末田　元

２）現地活動報告　：Ms. BUGTONG Anne Aubrey De Guzman
（フィリピン帰国研修員）

２０１６年９月０５日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

JICA/KITA 技術研修に参加したオーブリーさん（フィリピン帰国研修員）から現地活動状況の便りが届きました

今回ご紹介する帰国研修員便りは、平成 27 年度：研修コース：「下水道システム維持管理（B）」に参加されたオーブリーさんの帰国後の活動状況です。技術研修コースを担当された末田コースリーダーよりオーブリーさんの活動についてご紹介して頂きました。

1．平成 27 年度：研修コース「下水道システム維持管理（B）」に参加したメンバー

6 ヶ国（9 名）から派遣された研修員の皆さんが、北九州市に集まりました。

2．今回レポートした帰国研修員の紹介

名前（通称）	写真	氏名	国名	受入れ研修期間
オーブリーさん		Ms. BUGTONG Anne Aubrey De Guzman	フィリピン	2016/01/ 11 ～ 2016/03/05

3. 研修コース期間中の記念写真

講義終了後の末田コースリーダーと研修員の皆さん

２．末田 コースリーダーからメッセージ

オーブリーさんは、フィリピンのザンボアンガ市内の区域を担当する地域水公社に勤務しており、専門は水環境で環境影響評価の仕事や新たに建設される下水処理場に関する業務などを担当しています。
研修員の中の紅一点でした。市に初めて設置される下水処理場の関連業務を担当していることもあり、研修中は何でも習得しようという心がけが素晴らしく、現場での見学の際もメモ帳を欠かさず、説明者からの話をしきりにメモしていたことが印象に残っています。

研修最終日の閉講式では研修員を代表して挨拶をしてもらいました。この挨拶文をＫＩＴＡのホームページで紹介することになり、オーブリーさんに了解を取りました。オーブリーさんから掲載ＯＫの返事と共に、所属の公社では季刊誌を発行（ザンボアンガ市やフィリピンの他の水公社との情報交換のため）していること、その季刊誌に研修で得た知識や情報を発表する予定とのメールをいただきました。
その内容も紹介させてほしい旨お願いをし、今回のＫＩＴＡホームページでの掲載になりました。報告の中に、アクションプランのことも述べられています。彼女がこちらで作成したアクションプランのテーマは、テレビカメラでザンボアンガ市の下水管を調査しようというものでした。より発展させた内容で上司にプレゼンができることを願っています。

帰国後もメールがきて、「下水処理場建設のための基礎杭の設計がうまくいっていない。何かいい方法がないだろうか。」との質問も寄せられました。研修で得た知識だけでは直面する問題解決には十分ではないでしょうが、研修の知識をより深めてもらいフィリピンの水環境改善に力をささげてもらいたいと思います。

頑張れ、オーブリーさん！！

３．オーブリーさんからの便り

帰国後の活動報告

①研修員名：　Ms. BUGTONG Anne Aubrey De Guzman
②国名：　フィリピン
③レポート：　地域水公社の技術サービスチームに対するJICA研修経験のブリーフィング

地域水公社の技術サービスチームに対するJICA研修経験のブリーフィング

ザンボアンガ市を担当する地域水公社の技術サービスチームは、水（上水・下水）事業に関する様々な事業の計画、設計、設置などに責任を持った組織です。また、流域管理や水資源管理、それらの事業に係る環境管理もしています。現在、技術サービスチームは市の中心商業地区の下水を整備するため 4,000m3 の下水処理場の設計、建設の調達準備をしています。

副部長の発案により、私は JICA 研修で得た経験をグループ外の職員に伝えることになりました。私は、研修期間中に学んだ新しい技術に最も焦点を当てました。特に重視したのは食品会社のために油水分離装置を使うということでした。現在、市の下水道システムでは、多量にたまった油を人力で取り除いているため、下水道施設を保護するには下水道を利用する食品会社に油水分離施設の設置を義務図ける必要があるとの考え方が出て来ているからです。

もう一つ、関心を得た案件は、処理された下水汚泥を農業用に土壌改良剤及び有機肥料として使用することでした。農業目的に処理された下水汚泥を使うことに関しては論理的な知識に裏打ちされていることから、最終的には農業コミュニティに受け入れられることを願っています。

副部長は特に私が立てるアクションプランに興味を持っていました。彼はアクションプランが 1−2 年の短期間で実行可能な簡単なものであることを理解しています。上位者にプレゼンする時は、パイプ・カメラ・システムは彼らにとって既知のアイデアなので、なぜこのアクションプランを立てたのかに焦点を合わせないといけないとコメントしていただきました。

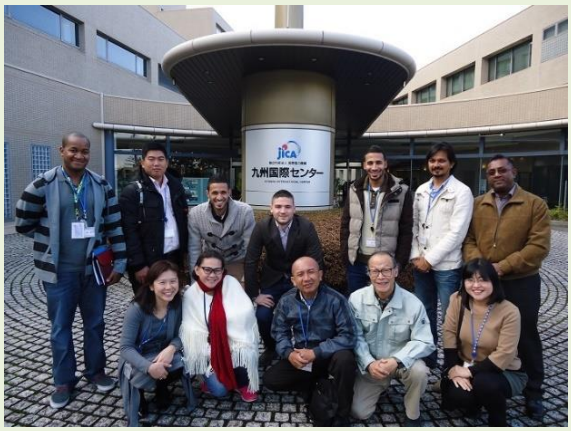
朝会で、地域水公社の技術サービスチームに日本での下水道システム維持管理(B)の研修についてブリーフィングしている私。

クリックしてレポートをご一読下さい。（英語版）

You got a mail!

KITA

ＪＩＣＡ／ＫＩＴＡ研修コースの写真集　　（２０１６年１月～３月）



ＫＩＣ玄関口にて

閉講式で挨拶をするオーブリーさん

下水処理場見学の研修員

企業訪問後、若戸大橋にて

油水分離装置の研修

末田ＣＬとオーブリーさん（長崎グラバー亭）

以上